

第 13 回全国大会 於:日本文理大学

1. 学会による企画 (概要)

高大接続での教育改革の各論を進める上で、特定の科目に関わらず協同的な学びを誘発・促進することが重要な事柄になっています。この基調講演では、日本協同教育学会、前会長の関田一彦先生(創価大学)をお招きし、協同的な学びを通じたアクティブ・ラーニングの重要性とリメディアル教育との関係についてご教授を頂きます。

2017年 8月22日(火) 14:55~16:15

基調講演

「協同教育の視座からのリメディアル教育への願い」

関田 一彦 先生

創価大学 教育機構副機構長・総合学習支援センター長・初年次教育推進室長  
日本協同教育学会理事(前会長)、初年次教育学会理事

【講演者紹介】

関田 一彦 (せきた かずひこ)

創価大学文学部卒業、イリノイ大学大学院修了、Ph. D.

創価大学教育学部教授。

協同学習を中心に、様々な教育方法に関するワークショッププログラムを開発し、小学校から大学まで、幅広い授業改善の支援を行っている。

著書、論文は、『大学授業を活性化する方法』(共著, 玉川大学出版部, 2004)、『ディーブ・アクティブラーニング』(共著, 勁草書房, 2015) 他、多数。

## 2. 大会実行委員会による企画(現地企画) (概要)

2017年 8月22日(火) 16:20~18:20

### 高大接続システム改革への現場の取り組みからリメディアル教育を考える

高大接続システム改革の趣旨が高校教育，大学教育改革による「学力の3要素」の定着であることから，高校，大学の現場での「学力の3要素」を意識した取り組みが，リメディアル教育の位置づけやあり方を変えていく可能性がある。

そこで，現地企画（大会実行委員会企画）では，大分県内の高校現場で学力の3要素につながる取り組みに奮闘されている教員を実践報告者に迎え，教科学習におけるアクティブラーニング導入の推進状況などについて高校現場の生の声を聞くことにする。今後の高校教育の変化や高大接続を意識した取り組みが，大学のリメディアル教育にどのような影響を及ぼすのかを議論したい。

### プログラム

1. 若者の気質を活かした初年次教育・教職協働・高大接続の取り組み  
吉村 充功（日本文理大学・コーディネーター）
2. 学校教育改革に向かう高等学校における  
思考力・判断力・表現力を育成するための指導方法の工夫改善  
佐藤 茂（大分県立大分豊府高等学校）
3. 定時制（多部制）高校での学び直しの実践報告  
太田 恭二（大分県立爽風館高等学校）
4. 主権者教育とNIE  
賀来 宏基（大分県立日田高等学校）
5. 指定討論  
関田 一彦（創価大学）

### 3. 専門部会等による企画（概要）

2017年 8月23日(水) 10:30~12:00

#### 日本語部会 <ワークショップ>

##### 大学生を対象とした本の読み方指導を考える

大学での学びにおいて、「本を読む」という行為はその基本にあるものである。しかしながら、現状では読書時間ゼロの学生が5割を超えており、本を読んだことがないため、「本の読み方」を知らない学生が増えている。

日本語部会では、今日の多くの学生にとって、ハードルが高い作業となっている「本の読み方」をテーマに、必要な本を探し、選び、理解することについて、どのような指導を実践したらよいかを考える。

##### プログラム

1. 本部会の趣旨説明 佐藤 尚子（千葉大学）
2. 大学生を対象とした本の読み方の指導 牧 恵子（愛知教育大学）
3. 本を開くことへの誘い 大野 早苗（順天堂大学）
4. 「あらまし読みの多読」から「比較レポート」へ 牧 恵子（愛知教育大学）
5. グループでの活動・質疑応答

#### 理数系部会

##### 大学生に必要な数学とは

よく、数学の話をするときに大きく分けて理系・文系という色わけがされます。しかしながら、理系の中でも学部学科によって大学での必要な数学は全く異なり、文系の中でも必要な数学は違います。

今回の理数系部会では、大学生に必要な数学を工学系・経済系・体育系、3つの事例を挙げて討論していきたいと思えます。

##### プログラム

1. はじめに 小野田 正之助（近畿大学）
2. 工学部の立場から（仮） 西 誠（金沢工業大学）
3. 経済系の立場から（仮） 小川 健（専修大学）
4. 体育系の立場から（仮） 堤 裕之（大阪体育大学）
5. 意見交換会

2017年 8月23日(水) 12:55~14:25

### 学習支援部会 <ワークショップ>

#### 学修(習)支援体制調査の分析および課題の共有

事前に、JADE 会員を対象とした学修(習)支援体制に関するアンケート調査を実施する。企画は2部構成とする。

第1部では、上述のアンケート調査の結果を報告する(部会長)。

第2部は、参加者を5人程度の小グループに分けディスカッションを行う。第1部の資料を元に各グループで学修(習)支援に関する課題等を議論し、発表する。

なお、当該企画で抽出された課題は、必要に応じて今後の学習支援部会での研究テーマにする。

! 参加をご希望の方は、事前の参加申し込みをお願いします(定員50名)。

また、グループワークをスムーズに行うため、事前アンケートにご協力ください。

参加申込締切:2017年8月7日(金)

参加申込・事前アンケート先:<https://goo.gl/mMQ8Fw>

#### プログラム

1. 学修(習)支援体制に関するアンケート調査の結果報告 石毛 弓(大手前大学)
2. 教育機関における学修(習)支援の課題——グループ・ディスカッション
3. 教育機関における学修(習)支援の課題——課題の共有

### 理事会企画 <ラウンドテーブル>

#### 専門職大学とリメディアル教育

大学の機能別分化に関する答申「我が国の高等教育の将来像」に示された「幅広い職業人養成」を行う大学には「充実したリメディアル教育の実施」が必要とされている。このような「新たな高等教育機関」として専門職大学の設置は、2019年度と間近に迫っている。本ラウンドテーブルでは、専門職大学とそこで求められるリメディアル教育について議論することを目的とする。

#### プログラム

1. 企画の狙い 寺田 貢(福岡大学)
2. 若者政策と世界的に進みつつある職業能力標準化の動向 志田 秀史(九州大学)
3. 専門職大学における職業基礎教育(職業人基礎力の養成) 菊地 克彦(共栄大学)
4. 全体討論
5. まとめ 寺田 貢(福岡大学)

2017年 8月23日(水) 10:30~12:00

### 英語部会（1）＜シンポジウム＞

#### リメディアル教育の現状と求められる授業者の資質

英語部会では2016年秋から、

- 1) リメディアル教育に携わる英語授業者が重視するスキル
  - 2) リメディアル教育に携わる英語授業者に求められる資質
- の2点について調査計画を進めて来た。

本部会企画では、学会内外の英語授業者を対象として実施した調査結果とその分析について交流を深める。1)については約40項目からなる質問紙を作成、2)については記述回答をもとにした質的分析を中心に行う。

#### プログラム

1. 趣旨説明 鈴木 政浩（西武文理大学）
2. 記述回答調査の概要と分析 鈴木 政浩（西武文理大学）
3. 参加者による討議

2017年 8月23日(水) 12:55~14:25

### 英語部会（2）＜ラウンドテーブル＞

#### リメディアル英語教育における授業者と学習者の意識

本部会企画ではリメディアル教育における英語授業実践の報告をもとに、それぞれの授業の改善点を参加者同士で検討し、よりよい授業づくりの指針を検討する。

英語部会から3名の会員を選び、日頃の授業実践を報告していただく。報告を受け、フロアからその授業の良い点と課題を指摘し合う。さらに部会企画(1)でまとめたリメディアル教育（英語）の定義や、携わる授業者に求められることとの関係から、その後の授業改善の方向性を模索する。

#### プログラム

1. 趣旨説明 安藤 香織（中央大学）
2. 質問紙調査の概要と分析 川井 一枝（宮城大学） 鈴木 政浩（西武文理大学）
3. 参加者による討議

以上